

文章理解において学習者は 文脈情報をどう生かすか

中国語母語話者を対象にした
ケーススタディ

石黒圭(国立国語研究所)

2017年3月25日@台北、26日@高雄

本日の講演の内容

- 前半は、学習者の脳内で行われる**読解活動のプロセス**に注目し、その段階的活動を鍛える授業活動例を紹介する。(文献(3)も参照)
- 後半は、語彙力を高める方法として、**語の意味を推測する方法**に注目し、文脈との関連でその方法の広がりを検討する。(未掲載)
- なお、今回は学習者の脳内の活動を中心に扱い、ピア・リーディングやジグソー学習法、多読などの近年有力な実践には言及しない。

読解活動のプロセス

- ①画像取得活動: 文字列を眺める
- ②文字認識活動: 1文字ずつ確認する
- ③語句分節活動: 文字列を語に切る
- ④意味変換活動: 語の意味を理解する
- ⑤統語解析活動: 文の組み立てを考える
- ⑥文脈構成活動: 前後の文脈を意識する
- ⑦状況想像活動: イメージを想像する

①画像取得活動

- 画像取得活動とは、**文字列を脳内に取りこむ活動**。
- 白い紙に印刷された黒い文字を画像として取りこむ。
- 私たちはスキャナーのようなもの。
- この段階の授業活動は考えにくい。
- 例) 山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり

②文字認識活動(その1)

- 画像として脳内に取りこまれた文字を、**文字として認識する活動**。
- 私たちが知らない文字に出会うと、思考が停止して読解活動が進まない。
- 平仮名・片仮名・漢字の知識が必要。
- 私たちはOCRソフトのようなもの。
- 例) 山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり

②文字認識活動(その2)

- 片仮名は誤解を引き起こしやすい。
- 片仮名は外来語を表し、その原語の多くは英語だが、発音はかなり異なる。
- 片仮名は外来語を表すが、外来語でなくても片仮名になるものも多い。
- 教室活動①「片仮名にする意味を考える」

②文字認識活動(その3)

- 漢字は表意(表語)文字であるため、知らない漢字でも、ある程度意味を想像することができる。
- もちろん、正確を期すためには辞書の使用が不可欠だが、字面から見当をつけることも必要。
- 教室活動②「すし屋の湯呑み」

②文字認識活動(その4)

- 漢字は表意(表語)文字であるため、音にできなくても意味がわかることが多い。
- しかし、音が意味の記憶を支えているのは事実。音にして意味の理解が深まることもあり、音読もまた、重要な文字認識活動である。
- 教室活動③「音読の効用」

③語句分節活動

- 認識された文字を、語、あるいは語と語の組み合わせからなる句として認識する活動。
- 日本語は、「漢字／片仮名＋平仮名」という語のまとまりが分かち書きに相当。しかし、語のまとまりがわかりにくい場合も少なくない。
- 例) 山川に 風の かけたる しがらみは 流れも あへぬ 紅葉なりけり
- 教室活動④「語のまとまりに分ける」

④意味変換活動(その1)

- 語連続として認識した文字列を意味に変換する活動。
- 脳内の辞書が活躍。
- 脳内の辞書が活躍するためには、その文章の話題を知ることが大切。
- 教室活動⑤「話題を見抜け」

④意味変換活動(その2)

- 語を意味に変換するさいには、表意(表語)文字である漢字を頼りにすることが多い。
- 意味への変換をより正確にするためには、**文脈との整合性が重要**になる(後述)。
- 例)山川に 風邪の かけたる しがらみは
流れも あへぬ 紅葉なりけり
- 教室活動⑥「誤変換を探せ」

⑤統語解析活動

- 文法という、語の組み立て規則によって構成されている語列を解析し意味を見出す活動。
- とくに、読解の場合、書き言葉であるため、連体修飾を中心とした長い節の処理が重要になる。
- 例) [山川に 風の かけたる] しがらみは
[流れも あへぬ] 紅葉なりけり
- 教室活動⑦「文の構造を見抜け」

⑥文脈構成活動(その1)

- 複数の文からなる文章として存在している文列に**文脈という意味の連続性を見出す活動**。
- 文章が線的な存在である以上、先行文脈との関係、後続文脈との関係という二つがありうる(後者は「予測」としてあらためて説明)。
- 先行文脈との関係で言うと、**話題の連続性を保証する文脈指示の指示語が重要**になる。
- 教室活動⑧「**指示語が指しているものを知る**」

⑥文脈構成活動(その2)

- 先行文脈との関係で、話題の連続性を保証するのは、文脈指示の指示語だけではない。
- 日本語においては、むしろ**省略が無標である**。
日本語では、あるものが省かれる省略よりも、必要なときだけ表現する表出のほうが適切。
- 教室活動⑨「省略要素を復元する」

⑥文脈構成活動(その3)

- 先行文脈との関係で、話題の連続性を保証する第三のものは、反復や換言である。
- キーワードのネットワークを見抜くこともまた、生きた文章を読む力をみがくという点で重要である。
- 教室活動⑩「キーワードの連鎖を意識する」

⑥文脈構成活動(その4)

- 一方、後続文脈を予測する活動も重要である。
- ここでの予測は、後続文脈の内容を一つに絞るのではなく、後続文脈の可能性を限定するものとして考える。
- 予測は、「関係の予測」と「内容の予測」に分かれる。
- 教室活動⑪「関係の予測で展開を読む」
- 教室活動⑫「内容の予測で笑う」

⑦状況想像活動

- ①～⑥の一連の処理によって意味に変換した文字列を、知識や場面と結びつけ、**実感をともなうイメージを構成する活動**。
- 視覚的イメージが描けるものと、概念的なイメージしか描けるものがある。
- **教室活動⑬「絵を描く」**→「山川に 風の かけたる しがらみは 流れも あへぬ 紅葉なりけり」を絵に描くとどうなるか？

(再考)読解活動のプロセス

- ①画像取得活動: 文字列を眺める
- ②文字認識活動: 1文字ずつ確認する
- ③語句分節活動: 文字列を語に切る
- ④意味変換活動: 語の意味を理解する
- ⑤統語解析活動: 文の組み立てを考える
- ⑥文脈構成活動: 前後の文脈を意識する
- ⑦状況想像活動: イメージを想像する
- ※プロセスとしての読解: 一期一会の出会い

参考文献

- (1)石黒圭(2010)『「読む」技術—速読・精読・味読の力をつける』光文社新書
- (2)石黒圭編(2011)『留学生のための 読解トレーニング —読む力がアップする15のポイント—』凡人社
- (3)石黒圭(2012)「読解とその教え方を考える」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』9、pp.1-18、国際交流基金バンコク日本文化センター
www.jfbkk.or.th/pdf/JL/2012/kiyou2012/01ISHIGURO.pdf
- (4)石黒圭(2016)『語彙力を鍛える—量と質を高めるトレーニング—』光文社新書